

では不足する場合があるとの報告があった。

これに関して、支部の年間活動は支部交付金の範囲でまかなうことが望ましいが、研究会・講演会など特別な費用を要する支部活動の計画がある場合は事前に常任理事会に申し出を行えば本部からの出費を検討する余地のあることを申し合わせた。

5. 気象集誌掲載の速報的記事について

論文が早く掲載されるレター誌“Geophysical Research Letter (GRL)”に投稿される気象学の論文が増えてきた。気象学会でも集誌とは別に速報的なレター誌を立ち上げてはどうかという意見が出された。

次のような意見、コメントがあった。GRLのレターは単に早く出る短い論文ではなく、ほかの研究者に与える影響が大きい速報である。集誌と別にレター誌を作ると編集者に過度の負担がかからないか、財政的にはどうか、検討が必要である。集誌のノートは論文の価値としてフルペーパーに劣るものではない。また、ノートにはフルペーパーの補遺という性格もある。集誌ではノートの速報性を打ち出

した。ノートで速報を出しておき、あとでフルペーパーという組み合わせもある。

6. その他

- (1) 法人の見直しが行われている。税金免除の廃止、総会成立の要件の緩和などが議論される。会員のあり方にも関連してくるので、今後も注目する。
- (2) IUGG 募金の目標達成のためにまだ努力が必要。
- (3) 2月末、内閣府の総合科学技術会議が日本学術会議の在り方について意見具申した。その中で学術会議は10年間引き続き国の機関とすること、会員のあり方を従来と変えることを今後一年検討することが示されている。

平成15年3月27日

社団法人日本気象学会

議長 萬納寺信崇

署名人 勝山 税

署名人 古川 武彦

第20回井上學術賞・井上研究奨励賞受賞候補者の推薦募集

標記の賞は井上科学振興財団が運営しているものです。

1. 井上學術賞

- (1) 候補者の対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた50歳未満（2003年9月20日現在）の研究者。
- (2) 表彰の内容：本賞として賞状と金メダル、副賞として200万円。授賞件数は5件以内。

この賞の応募には学会の推薦が必要です。気象学会では、7月末ごろに「学会外各賞候補者推薦委員会」を開催して推薦候補者を選考する予定です。その際の参考にするため、推薦するにふさわしい方をご存じでしたら、簡単な推薦理由を添えて2003年7月中旬までに気象学会（右記連絡先）あてお知らせ下さい。

2. 井上研究奨励賞

- (1) 候補者の対象：理学・工学・農学等の分野で2000年4月～2003年3月の間に博士の学位を取得した35歳未満（2003年9月20日現在）の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者。
- (2) 表彰の内容：賞状と研究奨励金50万円。授賞予定件数は30件。
- (3) 推薦者：原則として、博士論文の作成を指導した研究者。
- (4) 締切：2003年9月20日（土）。

連絡先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内日本気象学会
学会外各賞候補者推薦委員会